様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2016
課題番号：２５８７０９１３

研究課題名（和文）植民地期の韓国港湾都市における建築と都市景観に関する研究

研究課題名（英文）Architectures and Urban Landscape in the Korean Port Cities under Japanese Rule

研究代表者
金　ミンスク（KIM, MINSUK）

早稲田大学・理工学術院総合研究所（理工学研究所）・その他（招聘研究員）

研究者番号：８０５３５８７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、まず20世紀前半の植民地期の韓国の港湾都市の種類と特徴、全国的な分布を把握した。それをもとに、事例研究として統営と釜山などにおける建築と都市景観の変容を解明した。特に、史資料から港湾都市を構成していた主たる建物や土木構造物、暮らし遺産などを抽出し、それらの残存状況、痕跡調査、取り壊しの記録作成などを通して、植民地期の港湾都市の都市構造の把握と歴史的建造物の転用・変容について分析考察した。さらに、港湾都市の景観資産を歴史的な文脈や価値から如何に創成できるかについて考察した。

研究成果の概要（英文）：This study is to examine clearly the transformation of main building and landscape constituting a port city or town. Field works of case study are accomplished in Pusan city, Tongyeong city and so on. The main results are summarized as follows: (1) Database of the Korean port city during the colonial period is constructed, so we can confirm information such as a type, characteristics, location of Korean port city and nationwide distribution. (2) By the extracting main buildings, civil engineering structures, living inheritances from historical literature was clarified that the urban structure and the transformation of the historic buildings through investigation of current situation, trace, demolition of them in a port city. (3) Finally, I considered how the port urban cityscape including the old structures and buildings was build up from historic contexts and values.

研究分野：建築史

キーワード：植民都市　港湾都市　景観　歴史的建造物　変容

１．研究開始当初の背景

（１）韓国の植民地期の建築・都市史に関する研究は 1990 年代から持続的に行われてきた。その代表例として、孫禎睦の著書『日本統治下朝鮮都市計画史研究』（柏書房、2004 年、原著は 1994 年刊行の『日帝強占期都市計画研究』である）を挙げることができる。孫禎睦は朝鮮総督府によって行われた韓国の都市計画を時系列に並べ、同時期の日本国内における都市計画と比較することで、植民地期における韓国の都市計画の特徴を見出すとともに、扶余・京城・元山・大邱の事例紹介を通じて当時の都市計画案及び実態を紹介・批評している。

（２）2000 年代に入ってからは特定地域に限定した都市史研究が着々と進んできているが、ソウル（旧京城）や釜山・仁川といった開港場を中心とした研究に集中している傾向がある。一方、大邱や木浦、群山などのように、近代史を語る上で主要な地方都市に関する研究も登場した。同時にそれらの都市を構成する建物に関する悉皆調査も行われ、学術的に価値が高いと判断されたものに関しては登録文化財として登録が進んだ。この時期は韓国国内だけでなく、日本国内においても韓国都市史関連の論文が多数発表されており、特に、石田潤一郎・中川理・金珠也などを中心とし、その研究発表が相次ぐ。また、韓国人留学生の学位論文の提出も目立っており、曺榮煥の『近代の韓国・釜山における市街地の変遷に関する研究』（工学院大学、2005 年）　、金銀眞の『ソウルの近代都市史研究：特に鍾路を中心に』（東京大学、2007 年）、洪庸碩の『商工業施設の分布からみた 1876 年から 1945 年までの韓国・大邱の都市変遷に関する研究』（工学院大学、2007 年）がその代表例である。

（３）その他にも『近代植民地都市釜山』（桜井書店、2007 年）や『韓国近代都市景観の形成-日本人移住漁村と鉄道町』（京都大学学術出版会、2010 年）を近年の注目すべき研究成果として挙げることができる。前者は経済史の観点から釜山の近代を述べるものである。一方、後者は城邑の改変、鉄道建設に伴う日本式住宅の建設、そして日本人漁村の開拓などについて取り上げたもので、韓国の建築・都市が植民地化によってどのように変化し、終戦後にはどのように変容したのかに関して考察しているのが特徴である。

（４）今回申請する研究課題は、上記のような研究動向をふまえた上で、以下の諸点を考慮し、韓国建築史学・都市史学における学術上の萌芽的･発展的な研究を志す。まず、1990 年代の朝鮮総督府庁舎の撤去が代表するように、植民地期に建設された近代建築は全部取り壊そうという社会的な雰囲気がだいぶ穏やかになり、負の遺産も韓国の歴史を理解する上で貴重な文化遺産であるという認識が広まっていること。次いで植民地期の記録資料の発掘・公開が活発に行われており、それらのデータベースを多く活用することができる利点があること。さらに、植民地期の建築・都市像について模索することで、それが現在の建築・都市像に及ぼした影響についても考察できることが挙げられる。

２．研究の目的

（１）本研究課題は、植民地期の韓国の港湾都市における建築と都市景観の歴史研究を通じて、それらの変容を明らかにするとともに、その地域に現存する未指定文化財がもつ潜在的な歴史的価値を創成することを試みるものである。そのため、韓国の港湾都市のうち殆ど研究が進んでいない地域を研究対象とし、植民地期を機とした韓国の港湾都市における伝統的な漁村・港町から近代都市構造への変化の様子を明らかにするとともに、その開発における社会的背景に関しても探る。

（２）加えて、現存する建物に関しては悉皆調査を行い、未指定文化財のリストの作成と関連データの集成を行う。そうすることで、現存する文化遺産の集積状況が把握でき、都市の読み解きのための新たな手法開拓ができると考える。

３．研究の方法

（１）韓国の港湾都市に関する文献調査

現在、韓国では 1960 年代以降に指定・整備されてきた港湾とその背後都市を指して「港湾都市」と称す。しかし、現在の港湾都市の街路、建物、遺構などから伝統的な漁村や港町の痕跡は比較的容易に見つけることができる。そのため、まず文献調査を通して韓国で「港湾」がいかに登場したが把握するとともに、港湾の種類、地域的な分布などを考慮した目録を作成した。港湾都市を探るための基礎的な文献としては朝鮮総督府が刊行した『朝鮮の港湾』（1925 年）と『朝鮮港湾要覧』（1931 年）を用いた。

（２）韓国の植民地期の港湾都市に関する情報収集及び分析考察

港湾都市の目録の中から 1 次調査対象（群山、木浦、釜山、鎮海、統営、済州など）を選定し、それらの都市に関する史資料調査と現地調査を実施した。また、韓国の植民地期に形成されたアーカイブから当時の都市や景観に関する情報を収集した。

1 次調査対象のうち、近年の韓国の都市再生ブームの中、都市の変化が激しい統営については史資料と現地調査の結果をもとに今昔の比較ができるデータベースを構築した。

（３）港湾都市の景観資産に関する検討
　現存する文化遺産の集積状況を把握するために、指定・登録文化財、未指定文化財（特に、植民地期の景観や暮らしがわかる遺構に注目）に関する目録作成と関連データを集めた。また、かつての暮らしが把握できる建造物などの取り壊し現場に立ち入りし、その記録作成を試みた。

４．研究成果

（１）韓国の植民地期の港湾都市に関するデータベース構築
　港湾都市の分布がわかる地図（図 1）や港湾都市ごとの開発状況がわかる地図を集め、データベースを構築することができた。

図 1　韓国の港湾の分布
（左：1925 年、右：1931 年）

（２）植民地期の調査記録から港湾都市の都市・景観などに関するデータベース構築
　植民地期に生成された史資料のうち、2013 年には「近藤豊写真資料」のデジタルアーカイブ構築に携わることができたため、近藤の写真記録から韓国調査の移動ルートの復元を試みた。韓国の南海岸の沿岸部を調査した記録はあったが、鳥居龍蔵・藤島亥治郎の資料の中でわずかに関連記録を探すことはできたものの、当時の研究者にとって港湾都市の景観に関する関心が薄かったことが判明した。

図 2 統営港とその背後都市における
1910 年代の主要建物・施設

　そこで、現在の市町村誌に該当する植民地期の刊行物を調査し、その中に掲載された建築・土木構造物・観光資源などのデータベース構築と今昔写真の比較を行い(図 2､図 3)、学会でその分析結果について報告した。

図 3　統営の海底道路の今昔
（左：1930 年代の絵葉書、右：2013 年撮影）

（３）港湾都市の景観資産に関する検討：歴史的建造物の抽出方法の模索
　まず、史資料に掲載されている統営の主たる建物・施設の目録作成とそれらの転用・変容に関する情報を整理することができた（表 1)。また、現地調査で近年の伝統的な文化財復元整備に伴って近代の景観や暮らしの痕跡が消えてゆく様子を確認することができたため（図 4～図 6)、その成果を学術論文として投稿し、学会発表を行った。

図 4　寺院として変容された旧統制営の一郭

図 5　旧統営神社への参拝道の一部
（旧統制営の復元工事によって取り残された）

表 1　植民地期の統営港の主たる建物及び施設

主たる建物及び施設	統営港全図(1915)	統営邑全図(1932)	備考
税関署	○	◎	-
劇場	○	×	-
製網	○	×	-
土佐水産	○	×	-
釜山水産	○	×	-
統営病院	○	×	-
金融組合	○	×	-
農工銀行	○	×	-
工業傳習所	○	×	-
面事務所	○	◎	-
普通学校	○	○	*(1908, 1909)
小学校	○	○	*
学校組合	○	×	-
郵便所	○	○	-
警察	○	○	-
法院支庁	○	○	*(1910)
郡庁	○	◎	**
忠烈祠	○	○	-
海水浴場	○	×	-
遊郭	○	×	-
統営神社	×	○	-
漆工会社	×	○	*
公立水産学校	×	○	-
殖産銀行	×	○	-
釜山商業銀行支店	×	○	-
邑事務所	×	○	-
発電所	×	○	-
精米所	×	○	-
大興電気会社	×	○	-
統営海産株式会社	×	○	-
水産会社	×	○	-
製氷会社	×	○	-

○ 施設名、並びに位置の確認可、× 記載なし
◎ 移転、　*/** 歴史的建造物の転用・変容

図 6 水産施設など（敵散家屋）の取壊し（2013 年）

さらに、日本防衛省所蔵の日本軍駐屯地及びその施設に関する記録を『釜山市民公園歴史叢書Ⅲ 日本防衛省所蔵 日本軍用地設計資料集』(2013 年、韓文）としてまとめた。この記録は釜山市民公園がかつて日本軍駐屯地から米軍駐屯地を経て、市民公園になるまでの変容プロセスを考察するもので、仕様書翻刻作業を通して現在も残っている日本軍駐屯施設との比較検討を行った。

（４）残された課題と今後の展望

本研究を通して、植民地期の港湾都市の形成に関する広範囲の情報を網羅することができた。しかし、港湾都市ごとの都市構造や建築に関する大まかな調査はできたものの、近年のまちづくりブームの中でまちの資産として認識されず次々と取り壊されてゆく建築の行方を記録することですら容易ではなかった。研究成果の一部は学会発表などを通して他の専門家や研究者らに地方都市の遺産の存続に関する危機感を呼び起こすことができた。しかし、長期間の現地滞在ができない中、まちの近代的な景観が破壊されることを留めることはできなかった。そのため、今後は史資料と現状の比較ができるデータベース構築をもとに関連研究を行い、その成果については学術論文として投稿し、学会発表を行う予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　７件）

① Minsuk KIM, Tongyeong Port’s Urban Structure and Architectures in the Early 20th Century, Proceedings of the 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 査読有、Ⅱ、2014 年、pp.840-843

② Minsuk KIM, Haruto MURAKAMI, Toshikazu SETO, Keiji YANO, Yukihiro FUKUSHIMA, Makoto DOBASHI, Web-based Map and Digital Archiving for Korean Historic Building Photo Images taken by Dr. Yutaka Kondo during the 1930s and 1940s, Proceedings of KAGIS Fall Conference 2013 The 15th KOREA & JAPAN International Symposium on GIS, 査読無、2013, pp. 270-273

〔学会発表〕（計　７件）

① 金ミンスク、日帝強占期における統営港の主要建物と施設について、韓国建築歴史学会 2014 年度秋季学術発表大会、査読無、2014 年 11 月 22 日、ソウル市（韓国）

② 金ミンスク、20 世紀前半の韓国・統営港の主要建築について、2014 年度日本建築学会大会、2014 年 9 月 12 日～2014 年 9 月 14 日、神戸大学（神戸市）

〔図書〕（計　１件）

① 金ギス、金ヨンブン、南ユンスン、金ジフン、鄭ジウォン(翻訳)、ナチュンソン、黄スファン、徐マンイル、張ヘビン（デジタル図面製作及び青焼き復元)、金ミンスク（監修）、釜山広域市、釜山市民公園歴史叢書Ⅲ 日本防衛省所蔵 日本軍用地設計資料集、2013、総 386 ページ（pp.25-101、pp.105-107、pp.341-386)

〔その他〕
近藤豊写真資料
http://www.arc-ritsumei.com/

６．研究組織
(1)研究代表者
金　ミンスク（KIM, Minsuk）
早稲田大学・理工学術院・その他（招聘研究員）
研究者番号：８０５３５８７３